

2024(令和6)年度第1回霧島市隼人人権啓発センター運営審議会要旨

開催日時	2024(令和6)年5月16日(木) 14:00~15:10		
開催場所	霧島市隼人人権啓発センター会議室		
出席委員	福永委員(会長)、有川委員、勝目委員、室屋委員、三戸瀬委員、尾ノ上委員、西野委員、鎌田委員、是枝委員、山口委員、赤塚委員、宮田委員(12名)		
事務局	担当部・課職員：石神市民環境部長、森市民課長、清水人権・男女共同参画グループ長 啓発センター職員：山口館長、徳永副館長、坂元指導相談員		
公開・一部非公開又は非公開の別	一部公開	傍聴人数	0人
議事			
1 説明及び審議事項			
(1) 2023年度事業経過報告について			
(2) 2024年度人権啓発センター運営方針(案)について			
(3) 2024年度人権啓発センター事業計画(案)について			
審議結果等の概要			
議長 福永委員(会長)			
1 審議事項			
(1) 2023年度事業経過報告について			
・事務局が資料に沿って説明。委員からの主な質問・意見並びに事務局の回答は次のとおり。			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">委員</div> 年間5回開催される人権学習会に参加した参加回数別の受講生の割合について教えてほしい。⇒後日、調査して文書で報告すると回答			
⇒ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">事務局</div>			
2023年度の一般教室生の受講者94名(※実人員・途中脱退の方も含む)に対して啓発センター主催あるいは霧島市部落問題研究集会事務局として開催した主に一般教室生対象の年5回の人権学習会への参加率は、下記のとおり。			
・ <u>3回以上参加 75.53%(71名)=①+②+③</u>			
① 5回参加 19.15%(18名)、② 4回参加 34.04%(32名)、③ 3回参加 22.34%(21名)、			
・ <u>2回以下参加 24.47%(23名)=④+⑤+⑥</u>			
④ 2回参加 12.77%(12名)、⑤ 1回参加 6.38%(6名)、⑥ 参加なし 5.32%(5名)			
※啓発センターが開講式時に一般教室の受講生に3回以上の参加をお願いした人権学習会については、約75%の受講生が3回以上参加した。			
<u>今後、一般教室生の人権学習会への参加率を上げていけるように広報・啓発に努めていく。</u>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">委員</div> 硬筆教室について、委員自身が参加者の立場で硬筆教室の素晴らしさについて説明。			
⇒ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">会長</div> 今後も各教室でいろいろと工夫をしながら、先生方が教えてくれることを期待したい、			
(2) 2024年度人権啓発センター運営方針(案)及び			
(3) 2024年度人権啓発センター事業計画(案)について			
・事務局が資料に沿って説明。委員からの主な質問・意見並びに事務局の回答は次のとおり。			

委員 舞踊教室の回数が他の教室より多い（月4回）理由を教えてください。

⇒ **事務局** 舞踊教室は、もともと地域の方の参加が多かった教室で、回数も多く設定していた。今は、地域の方が2名参加しているが、ご高齢になってきてはいるが、舞踊に来るのが楽しみで、舞踊は稽古を重ねないとなかなかうまくならないということで、どうしても月4回は稽古をしたいという地域の方からの要望もあり、現在、舞踊教室は4回開催している。

委員 地域のひろば推進事業の取組の支援について、どのような支援をしていくのが啓発センターの役割なのか。

⇒ **事務局** 地域のひろば推進事業の手続き等について、啓発センターで地域の代表の方と一緒に協議をし、計画をたて、社会福祉協議会に、啓発センターがどこまで支援をしたらいいかということ相談しながら事業を実施している。

啓発センターは、地域の皆様方が何をしたいか、どういうことで集みたいかということ提案し、その提案について皆様の意見を聞いて、計画を立てて、なるべく皆さんに参加いただくという形で、支援をするのが啓発センターの役割と考える。

委員 地域のひろば推進事業の趣旨は、認知症などを予防することにある。そして高齢者同士で交流しながら、いろいろ皆様の状況などもお互い知り合えるので、地域の人にとっても喜ばれている。地域同士の人間がつながって、わかり合える。

地域のひろば推進事業は、本当にいい事業だと思いながら実施している。

⇒ **会長** 地域のひろば推進事業の実施は、これから高齢化がどんどん進む中では、本当に必要なことではないかなと思っている。

そのためのいろんな手続きを啓発センターで支援をしてくださることは非常にすばらしいことだ。今後ともよろしくお願ひしたい。

委員 民生委員は、常に、地域包括支援センターや社会福祉協議会あるいは行政の方と連携して支援している。

まず、啓発センター職員に相談し、こういうことがあるから、担当の部署に繋いでくださいということもある。民生委員の活動に大変、心強い場所と思っているおり、啓発センターが、このままひき続き運営されることを願う。

⇒ **会長** 地域の拠点である啓発センターを大いに活用していただき、地域と連携していくことが素晴らしいことに繋がるのではないかなと思う。

これから特に高齢者が増えていくと思うので、気軽に相談ができる啓発センターがあるということ住民の皆さんがみんな認識していただければいいと思う。

また、地域のひろば推進事業と連携をしていくこともいいことだと感じている。